

平成 27 年 10 月 17 日（土） 光明台北校区 タウンミーティング 参加者 43 名

【市長との意見交換】

市民： 北校区から課題は、社会福祉協議会が作成した和泉市福祉活動計画を土台とした街づくりの実践と行動。そのためには、連携、横のつながりが必要であり、個人（意識の改革が必要）→家族→ご近所→趣味のサークル→自治会→老人会・子供会（世代間）→民生児童委員→公的機関（地域包括など）→医療機関店舗→郵便局・交番・学校等が連携し、情報の共有が必要ということ。

2 番目に街かどデイハウス事業が時の流れにあっているのか。ボランティア団体では限度がある。スタッフの後継者問題、高齢者の意識。その代わるものとして、新地域支援事業の充実、自治会・老人会など。

その他には、不便な買い物に移動販売、声掛け助け合い、市立病院への交通アクセス、コミュニティバスの本数を増やしていただきたい。

市長： まず特に光明台北校区はそういう現象をどうやって食い止めていくか。横のつながりを作っていくべきということで、地域福祉推進事業として、社会福祉協議会に委託している。第 3 次地域福祉活動計画では、地域福祉を高めていこうと、行政と自治会との関係もあるが、行政が軸としてではなく、地域との連携、協働、会社と団体、個人と会社など、そういう連携を地域で強化して頂いて、地域福祉の観点から街づくりを進めていこうと思っている。各地域で取り組みが進んで、各課題に取り組んでいただき、地域の方々の手の届かないところを行政として行っていきたい。

街かどデイハウスについては、確におっしゃる通りで、ボランティアではかなり財政的に厳しい。大阪府が肝入りで実施した事業だが、大阪府の補助金が少なくなっている。十分ではないが、事業ごとにいろんなメニューを出していただいたら補助金が出るという形での取り組みを進めている。

街かどデイハウスを運営に関しては、29 年 4 月から開始となる新介護予防・日常生活支援総合事業の準備を進めていく中で、皆様のご意見を聴きながら街かどデイハウスの機能をどういう形で提供していけるかを見ていきたい。

コミュニティバス交通アクセスをどういう風に充実させていくかについては、大変不便にされていると聞いており、利用状況を考慮して計画を検討していく。

市民： 福祉活動計画は平成 16 年度から始まり、現在第 3 次は平成 26 年度から今年で 2 年目になる。ワークショップした結果、26 年度から光明台北校区として一番力を入れているのは、いきいきサロン。21 校区どこの校区を見ても光明台北校区ほどいきいきサロンに力を入れている校区はないと思う。1 箇所でも多人数のいきいきサロンは望まず、できるだけ少人数の近所で行ういきいきサロンで、現在 17 のいきいきサロンを実施。延べ 4700 名参加してくれた。17 までは市からの補助が出る、それ以上はでないということで、連合会さんと相談しながらもっといきいきサロンを増やしていきたい。そのためにどうしたらいいか、一つは協議の場づくり、他の校区は団

体役員を入れながら話し合いをしているが、光明台北校区はできるだけ実践に沿った協議の場をつくらうとしている。

会長から、今年光明台北校区でも認知症の研修を、社協を通してやると聞いている。一昨年、緑ヶ丘校区で認知症の研修をやっており、私も参加した。認知症の方を何人かつくって、警察と市と社協と連携していくということも確認した。そういうのも経験しているので、会長と相談しながら来年の3月までにやる予定。社協も協力しながら、連合会長自治会長を通してお話しているが、広めていくことには時間がかかる。約3500件位校区にあり、その中でも約2100件しか自治会に入っていない、全体的に広めるには大変な時間が要るが、腰を落ち着けて今後も福祉活動計画を進めていきたいと思う。

市民： 防犯カメラについて、1年目2台、2年目2台、3年目1台、各校区に計5台のカメラをいただいた。他の校区でいらないうところが昨年度は運よく4台あり、今年は3台増え、その設置位置も2日ほどで決め手続きしている。北校区は光明台地区と室堂地区があり、多くの児童が室堂地区から通学している。先般、変なはずらの事件があり、そういう経緯があるので、何台か設置しているがまだまだ行き届かない面がある。室堂まで子どもの足で3、40分かかる。3年に限らず今後も行政でつけていただければ一番ありがたい。防犯カメラの設置は、全国的に見ても非常に検挙率が高くなっているんで、どの地域も必要ではないかと思うので、行政の28年度の予算でも見ていただければありがたい。

市長： いろいろと子供たちの安全にも市民の皆様にご協力いただき、安全安心なまちづくりを実施実現して頂いているところであり、防犯カメラの有用性については十分理解している。大阪府内の各市でも一気に増やしているところもある。箕面市など一番いい例。本市も防犯につきまして力を入れている。防犯灯のすべてをLED化し、明るくなったといわれている。リースで年間3000万の予算を取った。暗いところは犯罪おこりやすいので、明るい街にするために他市に先駆けて実施した。予算は全体のバランスを見て、福祉・教育にも力入れないといけないので、その中でも防犯カメラの設置台数を増やしていく。

本当に犯罪に強い、犯罪を起こしにくい、起こそうという気が起こらない、というのは地域防犯力の強さだと思う。和泉市の市民皆様のご協力のおかげで青色パトロールカーが大阪府内で突出して多いのだが、100台余りの青色パトロールカーで巡回して頂いて犯罪者がうろろうろできない町づくりをしていただいている。他市の会合で言うと、和泉市民の方の意識の高さに驚くと言って頂いている。

行政としても、ハード部門で、できるだけ設置はしていきたいと思っている。ただ防犯カメラも安いのと高いのとある。箕面市は20万円位で1秒間に5枚位の写真しかとれないので、車の犯罪にはあまり対応できないが、かなり台数つけている。和泉市は1秒間に25枚位で車の犯罪にも対応できる高い防犯カメラを設置して、よ

り有効な形で設置している。中の SD カードは管理する皆様方にもあまり負担がかからないような機械にしている。スローテンポかと思われるかもしれないが、予算をかけていない訳ではない。気持ちとしては一気にしたいところだが、バランスとりながらご相談させていただきたい。